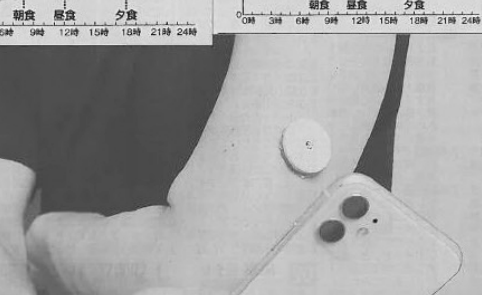
デイリースペシャル　～なぜ？どうして？～

医療の発展で病気の本質が変化！最新テクノロジーで治療も進化

糖尿病 名称が変わる!?

治療や予防に「血糖トレンド」が重要



スマホをセンサーにかざすだけで血糖値の測定が可能に

そこが知りたい！

糖尿病の名称変更の動き　予備軍2000万人以上の国民病

予備軍を含めると2000万人以上の患者がいるとされる糖尿病。現状を解説し、予防策を探る。

予備軍を含めると2000万人以上の患者がいるとされる糖尿病。国民の5、6人に1人が罹患（りかん）する可能性がある。まさに現代の国民病だ。現在、「この病気の名称が『不質と異なる』などとして、変更が提唱されるなど、あらためて注目されている。そこで今回、この病気の名称、また進化する治療の現状などについて、糖尿病専門医で、兵庫県姫路市の「糖尿病内科たかべクリニック」の高部倫敦院長に話を伺った。（業原正史）

予備軍2000万人以上の国民病

「糖尿病の名称変更の動きについて、高部院長は医学の発展とともに、実態が変わってきているのですと語った。

糖尿病というと、その名称の分解、代謝がうまくいかず、体が吸収できずにそのまま尿糖として出てしまい、栄養状態が悪化し体重減少が起こる。代表的な死因であった糖尿病ケトアシドーシスは、インスリン不足により糖代謝が滞り、脂質代謝が過剰に進行することが原因。それがインスリンの発見で、治療法が生まれ、栄養状態の悪化でとどまることなどの糖尿病は徐々に問題の病気なのですと説明した。

約100年前の「糖尿病は『栄養が問題の病気』と考えられていたという。エネルギーとなる糖を摂取しても、そのエネルギーが使えない、尿に糖が排泄する病気というイメージがある。『痩（や）せ』と重度のケースではそのような症状になりますが、昨今のほとんどの糖尿病は徐々に血糖値が高くなる病態が悪化し体重減少が起こる。代表的な死因であった糖尿病ケトアシドーシスは、インスリン不足により糖代謝が滞り、脂質代謝が過剰に進行することが原因。それがインスリンの発見で、治療法が生まれ、栄養状態の悪化でとどまることなどの糖尿病は徐々に問題の病気なのですと説明した。

「昔のような栄養が問題の病気なのです」と説明した。

「栄養が問題の病気」と考えられていたという。エネルギーとなる糖を摂取しても、その分解、代謝がうまくいかず、体が吸収できずにそのまま尿糖として出てしまい、栄養状態が悪化し体重減少が起こる。代表的な死因であった糖尿病ケトアシドーシスは、インスリン不足により糖代謝が滞り、脂質代謝が過剰に進行することが原因。それがインスリンの発見で、治療法が生まれ、栄養状態の悪化でとどまることなどの糖尿病は徐々に問題の病気なのですと説明した。

「昔のような栄養が問題の状態ならとどまることなく、今は病気の中身は血糖が中心。尿糖が出ない患者さんもいるため、尿糖は本質ではないのです。また尿という臭気が持つ負のイメージも感じられています」

血糖観察に欠かせないのが、日々の測定だ。毎日のことで患者の負担も大きいが、実はその面でも、着実に進化しているという。

血糖値の測定を行う際に出てきた血液を針で刺し、測った数値が過去の数値と比べて、どうなっているかが知られている。だが、数年前から、血を採らずに測定できる最新のシステムが開発され、「血糖のコントロールも昔とは比べ物にならない」というのだ。

このシステムは、小さなセンサーを体に付けることで、内蔵された小さな針が、皮下容（ようせき）の血糖値などを数分置（ち）きに測定し、数値を自動で記録する。専用の機器や、アプリをダウンロードしたスマートフォンをセンサーにかざすだけで、瞬時に数値が表示されるというものだ。

このシステムは、小さなセンサーを体に付けることで、内蔵された小さな針が、皮下容（ようせき）の血糖値などを数分置（ち）きに測定し、数値を自動で記録する。専用の機器や、アプリをダウンロードしたスマートフォンをセンサーにかざすだけで、瞬時に数値が表示されるというものだ。

この場合、測った数値のデータは、そのまま病院や家族とも共有が可能。実際に高部院長も日々の診察で活用しているという。

「患者さんがスマートフォンで計測したデータは、インターネットを通じて瞬時に病院に入ってきます。患者の方

重要な日々の測定

血糖観察に欠かせないのが、日々の測定だ。毎日のことで患者の負担も大きいが、実はその面でも、着実に進化しているという。

血糖値の測定を行う際に出てきた血液を針で刺し、測った数値が過去の数値と比べて、どうなっているかが知られている。だが、数年前から、血を採らずに測定できる最新のシステムが開発され、「血糖のコントロールも昔とは比べ物にならない」というのだ。

このシステムは、小さなセンサーを体に付けることで、内蔵された小さな針が、皮下容（ようせき）の血糖値などを数分置（ち）きに測定し、数値を自動で記録する。専用の機器や、アプリをダウンロードしたスマートフォンをセンサーにかざすだけで、瞬時に数値が表示されるというものだ。

この場合、測った数値のデータは、そのまま病院や家族とも共有が可能。実際に高部院長も日々の診察で活用しているという。

「患者さんがスマートフォンで計測したデータは、インターネットを通じて瞬時に病院に入ってきます。患者の方

血を採らず簡単に血糖値を測定

血を採らず簡単に血糖値を測定し、数値も管理できるとして、患者の負担を大きく軽減したのが、持続血糖測定器「FreeStyle リブレ」（アボットジャパン製）だ。写真。

センサー型の小さな機器を腕に付けるだけで数値が計測され、読み取りも、専用の機器に加え、専用アプリ「FreeStyle リブレ Link」をダウンロードしたスマートフォンをかざすだけでも可能。数値は、変動や推移を点でなく連続測定され波形の線で表示され、より詳しく血糖コントロールの状況が把握できる。

またデータは、連動することで医師のほかに家族、介助者とも共有でき、遠隔での確認が可能。離れて暮らす高齢の家族の見守り、親がその状況把握しやすいと糖尿病管理もとなっている。

このような事情などから、より現状に即した名称への変更が叫ばれているようだ。

血糖が高値という糖尿病だが、実際に血糖値が高いまま放置されると、目の網膜や腎臓や心臓血管、脳梗塞や心臓疾患、腎不全、失明など、さまざまな合併症を発症するリスクが高まる。その血糖値の管理が非常に重要だ。

「100年前は栄養の問題（代謝失調）が主な死因でしたが、昭和の時代には、これらの血管系の合併症が主な死因となり、重い合併症を発症するリスクが高まる。その血糖値の管理が非常に重要だ。

「100年前は栄養の問題（代謝失調）が主な死因でしたが、昭和の時代には、これらの血管系の合併症が主な死因となり、重い合併症を発症するリスクが高まる。その血糖値の管理が非常に重要だ。

「100年前は栄養の問題（代謝失調）が主な死因でしたが、昭和の時代には、これらの血管系の合併症が主な死因となり、重い合併症を発症するリスクが高まる。その血糖値の管理が非常に重要だ。

「実際に血糖値が高いまま放置されると、目の網膜や腎臓や心臓血管、脳梗塞や心臓疾患、腎不全、失明など、さまざまな合併症を発症するリスクが高まる。その血糖値の管理が非常に重要だ。

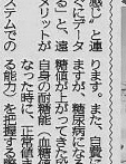
「100年前は栄養の問題（代謝失調）が主な死因でしたが、昭和の時代には、これらの血管系の合併症が主な死因となり、重い合併症を発症するリスクが高まる。その血糖値の管理が非常に重要だ。

センサー型の小さな機器を腕に付けるだけで数値が計測され、読み取りも、専用の機器に加え、専用アプリ「FreeStyle リブレ Link」をダウンロードしたスマートフォンをかざすだけでも可能。数値は、変動や推移を点でなく連続測定され波形の線で表示され、より詳しく血糖コントロールの状況が把握できる。

またデータは、連動することで医師のほかに家族、介助者とも共有でき、遠隔での確認が可能。離れて暮らす高齢の家族の見守り、親がその状況把握しやすいと糖尿病管理もとなっている。

高部倫敦院長

（たかべ・みちのり）「糖尿病内科たかべクリニック」院長。兵庫県姫路市出身。2005年に兵庫医科大学医学部医学科卒業後、兵庫県内の公立病院で総合内科専門医として勤務し、医療に従事。10年に神戸大学医学部附属病院に勤務し糖尿病専門医として研鑽を積み、14年には県立姫路循環器病センターで糖尿病内分泌内科の医長を務め、18年に「糖尿病内科たかべクリニック」を開設した。



高部倫敦院長